

	重点目標	具体的な事業計画	評価項目	評価結果・改善方策	次年度へ向けて
1	学校全体で本校の理念や将来像、まなびの在り方・内容について考え、共通理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代に合った学校像・将来像の検討及び構築</li> <li>「まなびの在り方」についての検討・実現</li> <li>研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者、地域、スタッフが共にまなび合う環境・関係・場の検討・構築。</li> <li>本校が提示できる「まなびの在り方」についての検討・実現。</li> <li>研修会における本校理念に対する教職員の理解の深化・共有。</li> <li>教職員が自分らしく働くための、規則や環境、組織、働き方の再構築。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まなび研究会や新規スタッフ研修会を定期的実施し、本校の理念や実践のあり方に対する共通理解を図るとともに、活発な議論が行われた。</li> <li>本校の理念をキレイ事にせずに、理想と現実の間でどのようなスタンスを採るべきか、人間社会の価値に解消せず個人の尊厳をどう守るべきか、&lt;共に在る&gt;を考えることの意味等、本校の在り方にかかる本質的な議論がなされた。</li> <li>個別の会議では、新規ゼミや総合的な探究の時間の新しいテーマといった具体的な内容が提起され、それぞれのプランやケースについて意見を出し合うことで、教職員ひとりひとりが自分らしさを発揮することを考慮しつつ、内容を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信制高校のコモディティ化が一層進むと予想される状況下、本校独自の価値や存在意義を高めていくため、理念の継承と発展をどう具現化するか、学校全体で対話・検討。</li> <li>各セクションで完結できる業務を増やし、校長業務の負担軽減を進め、教職員ひとりひとりが自分らしく働くための規則や環境、組織、働き方の再構築の継続。</li> <li>教職員間での本校の理念に関する対話と検討。</li> <li>職員服務規程の見直し。</li> <li>セクション内での担当業務移行。</li> </ul>
2	レポート、スクリーング、試験、イベントにおける本校理念の具現化と充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全常勤教員が総合的な探究の時間のテーマを担当</li> <li>総合的な探究の時間の各テーマの内容や実施状況について確認・見直し</li> <li>カリキュラム・マネジメントの実施</li> <li>学期ごとの振り返り・意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得や卒業要件であるレポート、スクリーング、試験、イベントにおいて本校理念がどのように実現されているかの確認及び必要に応じた見直し。</li> <li>より本校理念の具現化を図るための内容の充実化。</li> <li>科目やテーマの増減、さらには教育課程の再構成についての検討。</li> <li>学期ごとの振り返り・意見交換の場を設け、成果や課題を共有化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間は、2025年度に宮沢賢治と子どもを扱う2テーマを新たに開講、2026年度に向けても新規テーマを2つ開講予定で、準備を進めることができた。</li> <li>カリキュラム・マネジメントについては、2026年度から学び返し科目を開講することとした。アルカ科目の「共生・創生」は不開講とした。</li> <li>成果や課題の共有化については、まなび研究会や単位認定会議の際に、学期ごとの振り返りや意見交換を実施することができた。</li> <li>L-Space講習会の実施について（在り方・実施方法など）議論を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度の重点目標、具体的な事業計画は、基本的に今年度と同様としつつ、変更点としては事業計画に学び返し科目の実施を加え、中学生・科目履修生の効果測定を年とする。</li> </ul>
3	本校独自の活動であるゼミ活動における本校理念の具現化と充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全常勤教員がゼミを企画・実施</li> <li>学期ごとの振り返り・意見交換の場を設け、成果や課題を共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年度は2023年度に引き続き「西表島」「フクシマ」「三重」「オキナワ」の旅を実施し、加えて「台湾を知り世界を考えるゼミ」が実施できた。2025年度にはネパールを舞台とした「聖なる世界との出会い～ネパールへの旅～」を実施する。</li> <li>ゼミ全体を通して、本校理念がどのように実現されているのかを確認、必要に応じ見直す。より本校理念の具現化を図るため、内容を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度から続いている「西表島スタディツアー」「フクシマの現在・過去・未来を考えるゼミ」「オキナワから社会を考えるゼミ」「神社を巡りニホンの古層(ルーツ)に出会う旅～伊勢・穂高・諏訪～」、2024年度からの「台湾を知り世界を考えるゼミ」は例年通り実施できた。</li> <li>2025年度から実施予定だった「聖なる世界との出会い～ネパールへの旅～」は政情不安により急遽中止。参加予定生徒とは、日本にあるネパール料理店で会食をし、オンラインでネパールの生徒たちと交流をおこなった。非常に残念であったが、勉強会も含め一定の成果はあったと考える。2026年度は実施する方向だが、慎重に判断したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校独自の活動であるゼミ活動の整理と充実</li> <li>9つの旅の実施時期について検討。</li> <li>常勤スタッフ1人1ゼミを再度促す。</li> <li>各ゼミ内容の全体化・共有化（拡大スタッフ会議・スタッフ会議などで）</li> </ul>
4	生徒会やクラブ活動における生徒の主体性と自治（民主主義）の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動やクラブ活動の本来的意義である自治的活動を再確認</li> <li>生徒が主体的に活動できるように生徒会活動やクラブ活動を整備・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動やクラブ活動の本来的意義である自治的活動を再確認し、生徒が主体的に活動できるように生徒会活動やクラブ活動の整備・改善をおこなう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度も生徒会執行部や各クラブの多くのメンバーが通年で役職を担ったことで、生徒の主体性が高まり、環境への意識も向上した。</li> <li>課題解決に主体的に取り組む姿が見られ、自治的活動の広がりが見られた。</li> <li>生徒主体の活動の活発化がさらに進み、4つの新規クラブ（ウォーキング、軽音、バレーボール、写真）が発足した。</li> <li>具体的な活動としては、生徒会として地域行事（敬老会）へ参加、生徒たちが与えられた時間内で企画内容を立案、当日の運営まで主体的に実施できた。</li> <li>自治的活動の再確認については、生徒からの意見聴取について検討、事前および事後の対応について課題が生じたため、次年度への引継ぎを予定。</li> <li>生徒会やクラブ活動の整備・改善については、生徒が主体的に活動できるように場所や時間を見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点目標は2025年度同様「生徒会やクラブ活動における生徒の主体性と自治（民主主義）の推進」とする。</li> <li>生徒は少しずつ主体的に活動ができるようになっているので、教職員の関わり方としては、物事が進むようにサポートしていく必要がある。</li> <li>生徒会活動やクラブ活動の本来的意義である自治的活動を再確認し、生徒が主体的に活動できるよう、これらの活動の整備・改善を進める。</li> <li>学校生活をより良くするために、生徒同士で意見を出し、話し合い、行動する。</li> </ul>

5	「まなびにくさ」の研究とその成果の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな背景を持つ生徒の「まなびにくさ」の研究とその成果の共有</li> <li>・「生徒が自分で困りごとを相談できる環境づくり」についてスタッフ間で共有</li> <li>・レポート・スクーリング・試験における難易度の設定や提供方法について検討</li> <li>・さまざまなニーズにどのように応えていくか批判的に検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな背景を持つ生徒が在籍する本校において、生徒にとっての「まなびにくさ」にはどのようなものがあるのかを研究し、その成果を共有する。</li> <li>・レポート・スクーリング・試験における難易度の設定や提供の仕方について検討する。</li> <li>・さまざまなニーズにどのように応えていくかも批判的に検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まなびにくさ」の研究とその成果の共有については、大学・専門学校受験の際の配慮申請実績をまとめた。漢字を含む書字困難、場面緘黙、発達特性といった背景に対し、配慮や時間の延長等を求めた。医療機関の診断書提出が必須であり家庭や医療・福祉と連携した。高校での配慮実績の記述方法も課題。</li> <li>・校内研修では本校の「合理的配慮の考え方」について共有、「こちらから配慮をしてあげる」のではなく、「生徒が自分で困りごとを相談できる環境づくり」を大切に、環境調整に力点を置くことを確認できた。</li> <li>・レポートは教科書のページを追って取り組めるよう、本校独自のレポートを作成。スクーリングは午前、午後の講座を置いて出席しやすくし、人数も多くならないようにして、グループワークは極力減らしている。</li> <li>・試験は知識を問うのではなく、学んできたことのまとめができるようにし、識字障がいや外国籍の生徒もいるためスマートフォンの使用も認めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国から「個別最適な学び」「パーソナライズド・ラーニング」の方針が打ち出されているなかで、今後も保護者等からの個別的配慮に対するニーズが高まっていくことが予想されるため、教職員がこれまで以上に個別対応に終始することにならないよう、年度ごとに教職員間で共通理解を図る。</li> <li>・学外の関係各機関との連携も良好に進める。</li> <li>・多様な背景により入試等で「配慮申請」を行う際、これまでに発達特性の診断や医療機関の受診歴のない生徒の場合、どのように配慮を申請していくか検討する。</li> </ul>
6	本校らしい進路指導の在り方と卒業後の行き先となる進路先の研究と開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校らしい進路先の研究と開拓</li> <li>・校内塾を設置し、一般選抜希望の生徒に対応</li> <li>・大学、短大、専門学校の見学、企業の見学の実施</li> <li>・進路面談等の計画的実施</li> <li>・2026年度の3年次生激増を見越したシステムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にも進路決定率が低いとされる通信制高校だが、在籍する生徒は非常に多様なため数字だけでは見えない部分は多くある。学校基本調査の分類では分類できない進路先も多数存在する。</li> <li>・統計的数字は別としても多様な生徒が在籍している以上、何より本校らしい進路先の研究と開拓は重要である。</li> <li>・校内塾である「テラ・コヤ塾」を設置し、一般選抜希望の生徒にも対応する。</li> <li>・進路先を具体的にイメージするためにエクスカージョンを実施する。</li> <li>・計画的に進路指導をおこなうために進路スケジュールの確立に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校らしい進路先の研究と開拓については、これまで実績のある所が今後も進路先として信頼できるか、あるいは新たな本校生徒の進路先になり得るかという点にフォーカスし視察を実施、今後の開拓に繋げる基盤の構築を進めた。</li> <li>・支援団体の情報を教員間で共有、福祉的就労希望生の洗い出しに寄与した。</li> <li>・校内塾（テラ・コヤ塾）では対応科目を増やし、より広いニーズに応えた。</li> <li>・エクスカージョンの実施校数や、進路サポート企画の数が増え、生徒向けに卒業後の進路選択に関する様々な提案ができた。</li> <li>・L-Space・定期便での案内方法の再構築や進路の棚の整理を通じて、より多くの情報を生徒・保護者及び教員の許へ届けられる状況を創出できた。</li> <li>・3年次生に対する早期の面談実施が奏功し、生徒の進路に関する動向の把握が例年より早く実現した。</li> <li>・近年の全体的な早期進路決定の流れに対応しやすくなった。</li> <li>・2026年度の3年次生増に向けて、多くの生徒に進路選択に向き合ってもらい流れを実践的に確認できた。とくに就職に関しては、早期の職業診断や面談、ヤングハローワークの求人票に関する講話などを通じて、正規採用での就労を意識できる生徒の増加に繋がった。昨年度同時期に比べ、非正規雇用希望数が減少し、正規雇用の就職希望が増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度の3年次生激増を見越したシステムの円滑な運用と改善を進める。</li> <li>早期の進路決定に対応する仕組みの構築</li> <li>本校らしい進路先の研究と開拓の継続</li> <li>一般型選抜希望の生徒に対する新たな対応方法の構築</li> <li>大学、短大、専門学校見学、企業見学の実施の継続</li> <li>進路面談等の計画的実施</li> </ul>
7	本校の理念や魅力・特色について生徒・保護者・地域の方・関係各所等を含めたすべての人に向けたわかりやすい発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのリニューアル</li> <li>・中学生向け体験会、中学校教員向け学校説明会、入学プログラムの内容の確認と見直し</li> <li>・中学校回りや中間教室・フリースクール等の訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、不登校児童・生徒は増加の一途であり、中学生の進路選択として通信制高校が普通に選ばれるようになった。同時に長野県を募集区域とする通信制高校も増えている。</li> <li>・このような中で、本校の他校との違いや、何よりも理念や魅力・特色をわかりやすく発信することは重要。</li> <li>・2023年度に引き続きホームページリニューアルをおこない、完成させる。</li> <li>・中学生向けの体験会や教員向けの学校説明会、入学プログラム（テラ・スコラDays）の内容の確認と見直し。</li> <li>・中学校回りや中間教室・フリースクール等の訪問。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページはリニューアル期から徐々に改良を重ね、入試や広報担当が「お知らせ」を気軽に書き込んだり、ギャラリーページを更新したりすることで、本校の理念や魅力・特色をわかりやすく発信できた。</li> <li>・中学生向け体験会については、案内チラシを改良したことでレポートを重視する人も増えた。</li> <li>・中学校教員向け学校説明会は例年同様、生徒の生の声を届ける機会として奏功した。外部向けに本校を説明するためのパワーポイントや本校生徒の様子を伝える簡易動画の作成もでき、今後の活用が見込まれる。</li> <li>・入学プログラムの内容の大幅な見直しはすでに終わっているため、パンフレットを作成する際に確認を行っている。</li> <li>・中学校訪問は2校にとどまったものの、安曇野や塩尻で民間団体が実施した説明相談会への参加を求められたり、個別の中学校・中間教室からの説明会を頼まれたりするケースが増えた。高校生の問い合わせも堅調に推移、県内各地の合同庁舎で行われた高校進学説明会には学校全体で取り組み、概ね盛況であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標は2025年度同様「本校の理念や魅力・特色について生徒・保護者・地域の方・関係各所等を含めたすべての人に向けてわかりやすく発信する」とし、以下の重点活動に取り組む。</li> <li>ホームページによる発信の継続／中学生向け体験会、中学校教員向け説明会の実施／中学校中間教室向け説明会（生徒・保護者・教員）の可能な限りの実施／入学プログラムの内容の確認と見直し／高校進学説明会への参加／入学前相談に対応できるスタッフの増員／広告媒体の見直し／T V C Mの制作／本校生徒の活動発信、通信制理解のための写真展示会等の実施／オープンキャンパスの入試関係の説明で使用するパワーポイントのリニューアル／市役所、Mウィングに置くチラシの作成</li> </ul>